

「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」 第2回推進会議の概要について

「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」の第2回推進会議を、平成24年10月16日（火）に開催しました。

第2回推進会議には、6名の委員のうち5名の方々にご出席いただくとともに、会議の進行を補助するファシリテーターとして国立大学法人三重大学教育学部教授の杉田 正明氏にご出席いただきました。

なお、第2回推進会議の概要は、以下のとおりです。

「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」委員及びファシリテーター

※敬称略、50音順、カッコ書は役職

伊藤 亜衣美（三重バイオレットアイリス
選手 ハンドボール）

北畑 亨（熊野市観光スポーツ交流課
スポーツ交流係長）

※北畑委員はご欠席

清水 栄嗣（NPO法人伊賀フューチャーズ
クラブ理事長）

辻 正敏（株式会社辻工務店取締役社長）

堀越 英範（三重県高等学校体育連盟理事長）

前田 浩司（三重県障害者スポーツ協会
専門委員会 委員長）

ファシリテーター

杉田 正明（国立大学法人三重大学教育学部
教授）

＜推進会議の進行概要＞

会議の大まかな進行は以下のとおり

開会 17:30

- ・スポーツ推進局長あいさつ
- ・本年度の取組の進捗状況の説明

プロジェクト推進についての意見交換

次の4つのテーマに基づき、意見交換を行う。

- ・スポーツを通じた地域の活性化に向けた課題
- ・ジュニア競技者育成に向けた課題
- ・障がい者スポーツの推進における課題
- ・国民体育大会等の大規模大会開催に向けた県民へのPRなど

今後のスケジュール

閉会 19:45

（スポーツ推進局長あいさつ、県事業の説明）

冒頭、山口千代己スポーツ推進局長から委員の皆さんに、ロンドン五輪での三重県出身選手の活躍やぎふ清流国体の結果についてご報告しました。

また、「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」のプロジェクトを構成する2つの実践取組における本年度の取組の進捗状況について、事務局職員から説明しました。



※2つの実践取組

- ①「スポーツによる地域の活性化」
- ②「スポーツを支える人づくり」

(プロジェクト推進についての意見交換)

続いて、杉田教授の司会により、プロジェクトの推進に向けて、次の4つのテーマに基づき意見交換を行いました。

スポーツを通じた地域の活性化に向けた課題

ジュニア競技者育成に向けた課題

障がい者スポーツの推進における課題

国民体育大会等の大規模大会開催に向けた県民へのPRなど

各委員からは、日頃の活動の中で感じる課題をふまえた意見や提案をいただくなど、活発な意見交換が行われました。

委員からの主な意見

スポーツを通じた地域の活性化に向けた課題

・スポーツバウチャー制度を三重県として採用してはどうか。スポーツに特化したクーポン券の配付により、地域スポーツの振興だけでなく、地域経済の活性化にもつながる。

ジュニア競技者育成に向けた課題

・国体やインターハイの開催は、三重県のスポーツ競技力のレベルアップのための一つの通過点である。

・県民の皆さんがスポーツを身近に感じるように、中学校や高校の体育教員が、地域の小学校を巡回訪問し、出前授業をするなど、スポーツに親しむ環境づくりを働きかける。

・スポーツの裾野を拓げるためには、トップレベルの競技団体同士でタイアップし、スポーツ教室を共同開催するなど連携する。

・中学校・高等学校における運動部活動への加入率をみると、男子よりも女子のほうが低い。その理由をしっかりと分析し対応する必要がある。

障がい者スポーツの推進における課題

・障がい者スポーツについて、三重県の取組は遅れている。特に、施設のバリアフリー化等の整備面が不十分な状況がある。また、競技者の高齢化や指導者が不足していることが課題である。

・障がい者スポーツの裾野を拓げるためには、新人の発掘が課題である。

・テニスなどの種目では、健常者と障がい者が共に競技をしているが、今後は、その他の競技でも同じ大会に参加できるように、連携をしていくことが必要である。

国民体育大会等の大規模大会開催に向けた県民へのPR

・スポーツは「する」「みる」「支える」に加えて、「知る」という視点が重要である。県内でどのようなスポーツがなされているのか、どこでしているのかなど、まずは県民の皆さんに知ってもらうことが必要である。

・平成33年の国体をめざすだけでなく、国体終了後も、持続的に発展していけるように、社会全体の仕組みの中でスポーツをどう位置づけるのかが重要である。スポーツだけが盛んな地域はなく、社会全体の力がどうかである。

など



次回（第3回）の開催予定

次回（第3回）推進会議は、本年度の取組の進捗状況と翌年度の具体的な取組に向けた意見交換を行うため、12月に公開で開催する予定です。